いわて銀河プラザ応援女子会

anecco・通信

[アネッコつうしん]

わっしょい！大槌号

Vol.21

2022

wasshoi!

wasshoi!

wasshoi!

wasshoi!

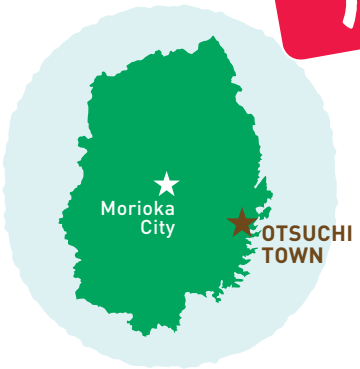
wasshoi!

wasshoi!

wasshoi!

wasshoi!

大槌町を応援したい！



大槌町（おおつちちょう）とは？

三陸海岸のほぼ真ん中に位置する町。東日本大震災では人口1万5277人（平成22年国勢調査）のうち、死者801人、不明者608人、合計1409人（2011年9月5日現在）となった。住宅は4800戸のうち3700戸が全半壊。事業所は700のうち95%が被災。小学校5校のうち、4校が被災、中学校2校のうち1校が被災など、壊滅的な被害を受けた。

毎年9月下旬開催の大槌稲荷神社と小鎚神社が例大祭を合同で行う「大槌まつり」。神輿渡御では川渡りが行われる。コロナ禍で2021年は開催中止となった。（上）／「人形劇ひょっこりひょうたん島」のモデルになったとされている町のシンボル的な蓬莱島。東日本大震災で灯台が流され、再建された。大槌町では毎日正午の時報に日替わりで数バージョンの「ひょっこりひょうたん島」が流れる（下）

左写真の1列目、黄色いバンダナ姿が岩間さん。今はもうない「おらが大槌復興食堂」で撮った写真。中央の写真は食堂の看板商品の1つだった「おらが丼」。名産の鮭とイクラの親子丼だ

3.11以降を振り返る

「おらが大槌復興食堂」に込めた思い

「2011年3月11日、ドーンと突き上げられた後、周りが揺れだした」と語るのは、岩手県・大槌町に住む岩間敬子さん。震災当時は、精密機器を組み立てる工場に勤務していた。「職場の棚が倒れたり、天井が落ちたりして、屋内にいられない状態でした」。停電して明かりが消え、工場の自家発電に切り替わって非常灯がついたが、揺れは収まらなかった。「1週間前に、工場で避難訓練をしていたので、全員スムーズに駐車場に集合しました。はうようにしながら」

工場が山側にあったので、工場長からは「できればこの場にとどまってほしい。どうしても心配な人は報告したうえで気を付けて移動するように」と指示があった。岩間さんは小学生の娘2人が心配で、大急ぎで車で小学校に向かった。校庭に車を乗り入れると用務員さんが「子どもたちは（避難所に指定されていた）大高（大槌高校）に行きました！」と大声で教えてくれた。

大高に到着して子どもたちを探すと、下のほうから子どもたちが先生たちと避難してきた。当時、小学4年生だった次女はそれまでは懸命に歩いていたが、岩間さんの顔を見るなり安心したのか号泣しはじめたそう。子どもたちの避難場所について、先生たちが高校側と交渉しようと動きはじめたとき、悲鳴が聞こえた。津波で町が壊れていく様子を目の当たりにした人々の叫び声だった。

山側にあった岩間さんの自宅は無事だったため、その夜遅く、岩間さんは娘たちと歩いて帰宅。電気と水が復旧するまで、近所の人たちと力を合わせてなんとか乗り切った。町内にある岩間さんの実家は津波で全壊し、父親は今も行方不明だという。

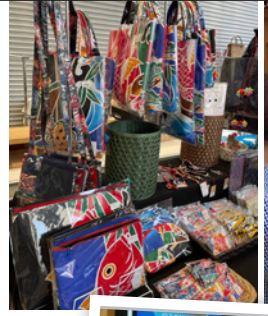
震災後、大槌町民や支援者、コンサルタントなどが「一般社団法人おらが大槌夢広場」を立ち上げた。この団体が「ボランティアの皆さんに温かいものを食べてほしい」という思いで「おらが大槌復興食堂」を始めることになり、その役を岩間さんが努めることになった。被災の状況や災害時の避難の大切さを伝えるツアーなども企画し、こうした取り組みが評価されて2012年には地域づくり総務大臣表彰も受賞している。建材、建設費の高騰に伴い、2013年12月に食堂は閉店。しかし、今でも大槌町の語り部ガイドや教育旅行、企業研修、地元の中高生育成プロジェクトなど、さまざまな取り組みで地元を盛り上げようとしている。

4年に1度、鮭たちは故郷に戻る

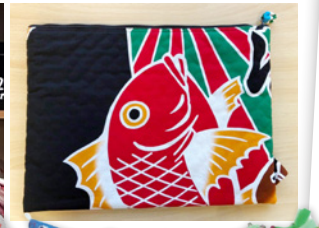
3月11日、勤務先である山田町の「青少年の家」で大きな揺れを感じたと言うのは、おおつち おばちゃんくらぶ代表の川原畑洋子さん。「青少年の家は高台にあったので津波は見えませんでした。1週間後、大槌町内に戻ったとき、自宅は基礎部分だけになっていました」。青少年の家は避難所、かつ、校舎が流された小学校の児童たちが学ぶ場所となった。仮設住宅での生活は8年に及んだ。

「いくつもの復興支援団体が大槌町を訪れました。関西の『アンテナデザインユニット（以後、ADU）』と『風の布・パピヨン（以後、パピヨン）』が縁でできた仲間が、おおつち おばちゃんくらぶとして今も一緒に活動しています」

2012年3月に始まった「Shake Handプロジェクト」は、手をつなぐという意味と、地元で取れる鮭をもじった事業。全長11.5cmの布製の鮭のマスコットを200円で購入した人が好きにデコレーションして大槌町に送り返す。その鮭マスコットの売上がプロジェクト資金になる。「篠原ともえさんや光浦靖子さんも鮭をデコしてくれたんですよ」。2021年は874匹の「鮭」が戻ってきた。「2012年からの3年間は大槌町での展示会開催が難しく、ADUとパピヨンの皆さんの協力で京都で開催してもらいました。4年目にしてやっと大槌町で開催できたときには、4年に1度故郷に戻る鮭と同じだなと感慨に耽りました」。そのほか大漁旗柄のバッグなどの小物も人気。「縁起物と喜ばれますし、愛用する釣り好きの方も」



大漁旗柄のカフェエプロンとポーチ。ポーチはPC用、タブレット用などのサイズ展開も。右下写真の中央が川原畑さん



岩手のイクラが希少に　地震で海の環境が変化 温暖化による影響も

大槌町で生まれ育った田中信博さんは、イクラを中心とした魚介の加工を手掛けるTRS食品有限会社の取締役を務めている。大槌町吉里吉里の防潮堤工事を機に、工場は釜石市に移したものの、「やはり気心知れた家族や友人に囲まれて暮らせる地元が一番！」という。「東日本大震災の津波の影響で海の中の環境が大きく変わってしまった」と田中さん。昭和の頃を最盛期に、サケの漁獲量は年々減っていたが、大震災以後はさらに減少。「最盛期の10分の1ぐらいだと思います」。TRS食品のブランド名は「潮風堂」。潮風堂には蓄積されたイクラ加工技術の知恵がある。「サケの加工期間は9〜12月。親サケのおなかを割き、イクラの等級ごとに加工方法を決めます。サケが工場に到着してから3時間以内に漬け込みをします」。塩漬けにできるのは、最高レベルの3特イクラだけ。しょうゆ漬けも漬け込む期間は細かく決めている。「お客さんに一番美味しい状態で召し上がっていただけるようにさまざまな工夫をしています」。これからサケの漁獲量が回復するとは考えにくい。「他社から発注される請け負い加工は順調です。しかし、できたら自社商品を開発したいという思いもあります。大槌町で養殖している銀鮭の卵で筋子を作ることも考えています」。社名のTRSは「TRY SANRIKU」。三陸の幸をよりよい商品にして広めたいという探究心が込められている。

Illustration：たくっち

「同じ日に取れた親サケでも、サケにより卵の状態は異なります」。左上の引き締まって美しい卵が3特の中でも最上級。左下も3特だが少し柔らかくなっている状態。右はお腹を割いたときに既にばらけている

東日本大震災から早や11年が経過　でも、震災前の生活は程遠い

イルカの大和煮の缶詰を発売して話題となっている、たかのり海産の佐々木貴範さん。「震災前はイルカを買い付けてさばき、販売することで日々安心して暮らすことができていた」と振り返る。「あの日」を境に佐々木さんの生活は大きく変わってしまった。「高台にあった貸家は無事でしたが、いろいろあって住めなくなってしまった。一度は関東に家を借りて先を模索したこともあります」。その後、大槌町で工場を新設したが、イルカの水揚げが震災後はほとんどなくなり、新商品の開発に四苦八苦している。「大槌町に限らず、岩手の漁業は今かなり厳しい。以前であれば大量に獲れていたサケ、イカ、サンマに加え、ウニやアワビも獲れなくなっている」。都心に住む私たちにできることは？ と尋ねると「私たちを思ってくれる、その気持ちがありがたい」とぽつり。岩手の漁業が盛り返すために、私たちにできることは何なのか、模索し続けたい。

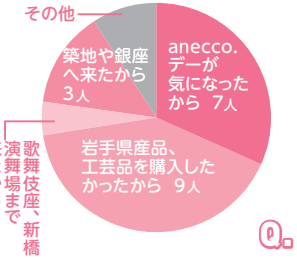
海ジビエ（リクゼンイルカ大和煮）の缶詰。陸前高田市・八木澤商店の醤油を使用

Report 第17回anecco.デー

田野畑村
山地酪農の貴重な商品やワカメコロッケを販売

2021年8月7日(土)~ 8日(日)、第17回 anecco.デーを開催しました。テーマエリアは「田野畑村」。国内でも数少ない取組みの山地酪農で生産された、「山地酪農牛乳」をはじめとする、「やまちヨーグルト」「白仙(山地ダブルクリームチーズ)」といった乳製品がイベントブースに並びました。さらにその牛肉と岩手町にある「肉のふがね」さんとコラボしたハンバーグ、コンビーフ、ローストビーフ、ビーフシチューも販売。当日は「外食できないし、ここで贅沢したい」といったお声や、「買った牛乳を自宅で飲んだら美味しかったのでまた追加で購入したい」と再度来店してくださった方も。
また、レシピと一緒に販売した「イモの粉」や「ロレオール田野畑」のオーナーシェフ伊藤勝康さんのレシピによる「田野畑ワカメコロッケ」はそれぞれ初日の土曜日に完売！
田野畑村公式キャラクター、タノくんグッズも販売し、田野畑のいいとこ盛りだくさんのイベントとなりました。

Q. 今回のご来店目的をお聞かせください。（複数回答可）



Q. 本日、銀河プラザで購入されたもの、購入予定のものを教えてください。

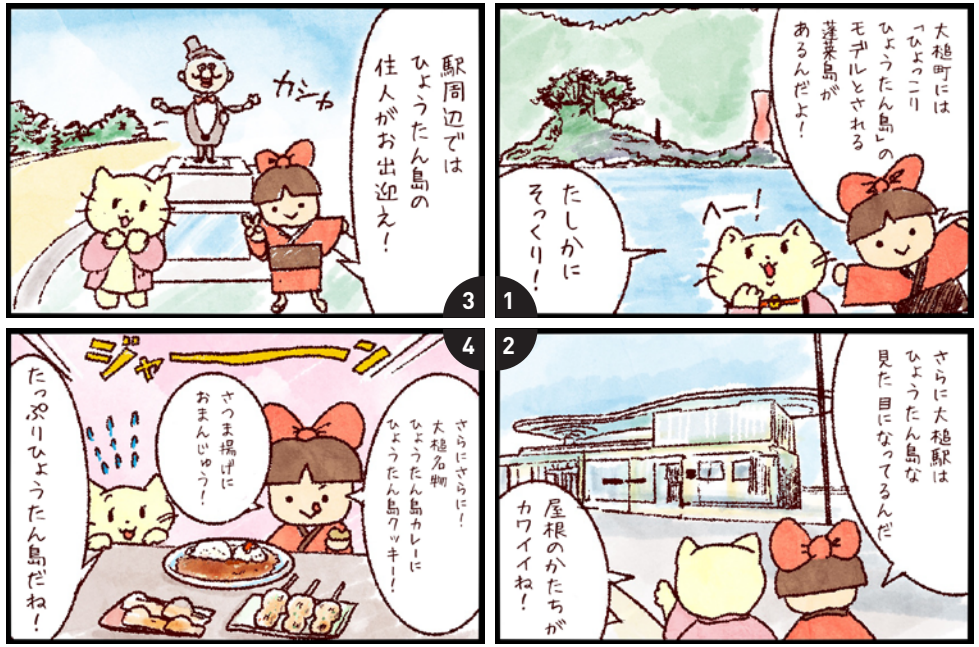
レーズンバター、牛乳、冷麺、山地牛乳、田野畑わかめ、野田塩、乾燥ごぼう、ふかひれラーメン、ペロッコうどん、小岩井シューアイス、ヨーグルト、豆しとぎ、田野畑コロッケ、チーズ、ゆうがお、ゆべし、生ウニ、シチュー、牛乳、コンビーフ、マスク、ビーフシチュー、いわてのピアス、anecco.おすすめチーズ、ローストビーフ、いわちくジンギスカン、田野畑ヨーグルトetc.

Q. 本日は買わなかったが、銀河プラザでよく買うもの、もしくは、売っていないが置いてほしい商品などあれば、教えてください。

海宝漬、岩泉の中松屋の栗の水まんじゅう、生ウニ、トロイカのチーズケーキ、週末の野菜、佐助の豚、ヨーグルト、牛乳、しめ鯖、冷麺、なっとう、米、岩泉の牛乳、ほろほろづけ、やさい多くしてほしい、ゆべし、ビール、サバ缶、AKABU、おせんべい

anecco.メンバー「たくっち」の

「大槌のシンボルは？」～ひょうたん島の巻～



たくっちプロフィール

岩手県出身。SNSで話題となった4コマ漫画「ユメミルゆめみとまるいともだち」を飛鳥新社から2016年に出版。現在、SNS・WEBメディアを中心に「ささささきÜ」として活動中。

三陸・宮古市まるごと観光物産展

コンシェルジュとして初参加しました！

2021年10月20 ～ 24日にいわて銀河プラザにて「三陸・宮古市まるごと観光物産展」が開催され、10月23 ～ 24日にはanecco.メンバーもコンシェルジュとして参加しました。普段はanecco.の法被やTシャツ姿ですが、今回は黒ジャケットにスカーフというカッチリした装いで皆、緊張気味。しかし、緊急事態宣言が明け、銀プラの周年イベントとも重なり大盛況の店内にワクワク。期間中、特設ブースでは宮古市の新名物である瓶ドンや、宮古ラーメンや磯ラーメン、ホタテなど、東京では購入できないレアな商品を求め、たくさんのお客様が来店しました。終日、宮古市とテレビ電話で中継し、イカ王子こと共和水産の鈴木良太さんをはじめとした市場や食堂、企業の人達と銀プラのお客様がリアルタイムで直接お話できたり、観光名所の浄土ヶ浜「青の洞窟」をサッパ船で巡り、コバルトブルーの光景を見られたり、ドローンを飛ばして浄土ヶ浜の絶景を見ることができたり……。たまたま来店されたお客様が、テレビ中継先の現地の人と知り合いだったというサプライズもあり、まだ岩手を訪れたことがないお客様にも浄土ヶ浜の絶景や宮古市の海の幸、現地の方の人柄を知ってもらういい機会になりました。

anecco.オススメ
岩手のお店
17

いわて銀河プラザで岩手の魅力に触れたあなたと分かち合いたい、
ステキなお店情報をお届けします。

岩手なイタリアン
六本木食堂 uenoyama

［六本木］イタリアン

お店には岩手ワインや地酒がいっぱい。試飲会などのイベントも時々開催しているそう

六本木駅6番出口からすぐ、大通りからちょこっと入った路地裏にある隠れ家のようなお店。一見こじんまりとしているけど、ドアを開ければそこは岩手、岩手、岩手―。かわいいそばっちのぬいぐるみと、「五枚橋ワイナリー」「くずまきワイン」「神田葡萄園」はじめとした数々の岩手のワインボトルが出迎えてくれる。ここで腕を振るうのは、九戸村出身の女性シェフ・五枚橋麻理子さん。「食を岩手への架け橋にしたい」という思いのもと、色とりどりの岩手食材をふんだんに使った数々の料理を提供している。

ランチの定番メニューは、「くずまき高原牛のローストビーフごはん」。美しいドーム状に並ぶくずまき高原牛に、宝石のようなイクラがほろほろとかかり見事に輝く。口に入れた瞬間に溢れる旨みといったら、それはもう。セットの盛り盛りサラダや野菜スープに使われているケール、トレビス、セロリ、カラフル人参、ビーツ、パセリ、グリーンカリフラワー…こちらも全て岩手産。このほかにも、「三陸牡蠣と三陸わかめ・ほうれん草のクリームソースパスタ」など、その日ごとに変わる岩手グルメが、岩手ファンを笑顔にしてくれる。完全予約制のディナーコースも、もちろん最初から最後まで岩手づくしだ。

岩手をこよなく愛する明るい女将・麻里子さんの営むこのお店は、昨年9月にオープンしたばかり。六本木の街の真ん中で、岩手への小旅行を楽しむことができる。

九戸村出身のシェフ・麻理子さん（右）は、食を通じて岩手の魅力を発信するべく、スタッフのさとみさん（左）とともに日々明るく楽しく奮闘中！

DATA 〒106-0032 港区六本木4-10-5　日宝六本木410 B1
03-6434-7230　営業時間　11:30～14:00、17:00～21:00　定休 日曜・月曜

私たちが anecco.です

anecco.（アネッコ）とは、いわて銀河プラザを応援する女子会です。「アネッコ」に込められた意味は①若い女性を意味する岩手の方言「あねっこ」。②岩手の魅力がより多くの人の心に「根づく」ようにという思いの2つ。メンバーは現在、約25人。全員が岩手県出身、東京近郊在住です。様々な長所を持つアネッコが、いわて銀河プラザを盛り上げる企画をボランティアで考案・実施しています！

blog http://ameblo.jp/iwate-anecco/　**twitter** @iwate_anecco
facebook www.facebook.com/iwate.anecco

blogはこちら→

今号「わっしょい！大槌」の意味は？

大槌町出身のanecco.メンバー、きみっちから「大槌は祭りが本当に盛り上がる町なんです！」と聞きました。写真からも熱気が伝わってきます。震災後に再開された大槌まつりも、コロナ禍で中止になってしまったそう。早くみんなでお祭りで盛り上がる日が来ますように。

岩手の特産品や観光案内情報が満載！

いわて★銀河プラザ
〒104 - 0061
東京都中央区銀座5-15 -1
南海東京ビル1階
営業時間 10時30分～19時
毎月末日の営業は17時まで
TEL 03 3524 8282
FAX 03 3524 8286
www.iwate-ginpla.net

編集／anecco. 通信編集部　スタッフ／きみっち、たくっち、でらっち、まいっち、まちっち（執筆・編集）、みおっち（デザイン）
協力／いわて銀河プラザ、岩手県東京事務所　anecco. 通信 vol.21 2022　わっしょい！大槌号 2022年3月5日 発行
無断転載を禁止致します。